源 流　第２５４号　教育長　儘田　文雄

次期学習指導要領に向けて

出典：「令和７年７月４日　中央教育審議会　教育課程企画特別部会資料１」

豊かな学びにつながる学習評価

―「主体的に学習に取り組む態度」に係る評価の改善❶ ―

＜個人内評価への変更＞

○　前回改訂時、「学びに向かう力・人間性等」のうち感性や思いやり等については目標に準拠した評価や評定になじまないとして「個人内評価」で扱うこととし、それらを除いた「主体的に学習に取り組む態度」、すなわち「粘り強さ」「自己調整」を目標に準拠した評価の対象としたが、理解が難しく目指す資質・能力を適切に反映した評価となりにくい、負担が重い等の指摘あり。

○　一方、「学びに向かう力・人間性等」をカリキュラム全体で育んでいくことや、そのために主体的な学習の調整を促す課題を意図的に活動に位置付けていくことの重要性は一層増大

❶　「学びに向かう力・人間性等」については、観点別評価の評価観点としては存置しつつも、各教科ごとに「目標準拠評価」として行うのではなく、**教育課程全体を通じた「個人内評価」として行う方法に改める**ことにより、過度な評価材料集めを抑制しつつ、一人一人の良さや成長を自然な形で肯定的に評価できる可能性について要考察

❷　❶を前提とすると、「感性・思いやり」と「主体的に学習に取り組む態度」に分ける必要がなくなるため、評価観点としてはシンプルに「学びに向かう力・人間性」とすることの適否について要考察

※「個人内評価」とすることにより、育成の重要性が低くなったとの誤解が生じないよう留意が必要

現状維持は退歩

実業家　渋沢栄一

自分は僅（わず）かに現状を維持しているとして、他人もまた同様なればよいが、人は進んで止（や）まぬのが世の常であるから、結局現状維持は、取りも直さず自分が退歩する勘定になるのである。

出典：「渋沢栄一　一日一言　人間力を高める言葉」（致知出版社）

※　社会が急速に発展し続ける現代においては、なおさらのことです。